

|             |                                |    |      |     |        |
|-------------|--------------------------------|----|------|-----|--------|
| 参加した<br>コース | ふじのくに地域探究コース<br>(多文化共生・多様性コース) |    |      | 訪問国 | シンガポール |
| 学校名         | 静岡県立富士宮東高等学校                   | 氏名 | 増田惺奈 | 学年  | 2      |

日本とシンガポールの介護の違いを知るというテーマでシンガポールへ3週間留学しました。私は普段学校では福祉科に所属し学んでいます。日本では老老介護や認認介護が問題になっていて高齢化が進む日本では深刻な問題だと感じています。シンガポールも日本ほどではありませんが高齢化が急速に進んでいます。その中でシンガポールでは家族が介護を行う家族介護が多くなっています。しかし、日本では負担が大きくあまり浸透していません。なぜ負担の大きい家族介護が行われ、浸透しているのか知りたく思い探究しました。



探究ではシンガポールの大学で介護について勉強を行っているペンさんにシンガポールでの介護の仕組みや方法についてインタビューしました。その中でシンガポールでは家族だけでなく外国人労働者が雇われ活躍していると知りました。もし、日本がシンガポールと同様に外国人労働者を受け入れれば、問題となっている人手不足の解消に繋がるのかもしれませんが、しかし、外国人労働者を受け入れる体制が不十分であることや、外国人労働者に介護してもらうという抵抗感などから、外国人労働者に介護をしてもらうことが当たり前になるのはまだまだ先だと感じました。また、シンガポールと比較して、日本の介護で改善したいことは介護に対する意識改革です。そこで、介護に対して感じていることや偏見について調査しました。大変そう、「汚い」、「肉体労働」、「精神的に辛い」などのマイナス意見が多くありました。私と同じように福祉科で勉強している友達20人に実際に介護をやってみて楽しいと思える瞬間があったか聞くと全員が楽しいと答えてくれました。静岡県では介護の新3Kとして「感謝」、「心がつながる」、「感動できる」を掲げています。このように介護に対する意識が少しでもプラスなものになれば介護の担い手になる人が増えると考えています。

同じく介護を学ぶ友達に聞きました！

Q. 介護をやってみて楽しい？

20人中 20人 YES!

ありがたうと言ってもらえた！  
名前を覚えてもらえた！  
笑顔が見れた！



留学中にシンガポールの街にある福祉設備を見つけようと考えていました。私が見つけた設備は認知症の方に優しい看板です。赤や青、緑の色は認知症の方でも混乱しない色と言われているため道に迷うことがなくなることを目的に設置されています。街の人が多く集まる道などに案内表示として設置されていました。実際多くの人の役に立っているそうです。



また、今回の探究では、シンガポールの介護施設を訪ねて日本と施設のサービスが異なるのか実際に見学する予定でした。しかし、急遽断られてしまい見学することができませんでした。見学できず残念でしたが、他の探究や語学学校での勉強を頑張ろうと気持ちを切り替えました。シンガポールの施設には、日本では費用の面から普及があまり進んでいない介護ロボットを多く運用していると聞いたので、機会があれば是非見てみたいです。

今回留学に応募する際には、楽しそう、留学ってカッコいいなと思い応募しました。しかし、私は英語を話すことに自信がなく、留学が近づくにつれて英語を話すことが不安で行きたくないと思うことが増えて



しまいました。その気持ちが回復することがないまま留学がスタートし、ホームシックになり、帰りたと思う日が続きました。しかし語学



学校で出会った友達と会話できたり、授業内で発表して先生に GOOD をもらったりして抵抗なく英語を話せるようになりました。電車内で出

会った人と話したり、お店の店員さんと会話したりして英語で話す楽しさに気づくことができました。簡単な英語でも伝わること、文法や発音を気にせず話せることを知り、私の自信に繋がりました。

今回の留学では自分自身を見つめ直すことができました。英語で話すことは苦手でも挨拶ならできると考えていても緊張してしまい言えなかったり、街頭調査で多くの人に声をかけようと思っていたのに一歩引いてしまったりと失敗も多くありました。しかしその失敗も経験と捉えこれからの生活や将来で人との関わり方で活かしていきたいです。

